

生物科学学会連合 第6回定例会議 議事録

日時：2013年2月16日(土)14:00～16:00

場所：東京大学理学部 2号館 2階 223号室(東京都文京区本郷 7-3-1 東京大学本郷キャンパス内)

出席：

運営委員

浅島 誠(生科連 2013-2014 代表・国際生物学オリンピック日本委員会委員長)
長濱 嘉孝(生科連副代表) 福田 裕穂*(生科連副代表)
宮島 篤(生科連前代表) 入江 賢児(生科連前副代表)

団体代表(加盟団体)

吉田 丈人(個体群生態学会)	東原 和成*(日本味と匂学会)
岩崎 博史(日本遺伝学会)	河田 光博(日本解剖学会)
大野 博司(日本細胞生物学会)	深田 吉孝(日本時間生物学会)
八神 健一(日本実験動物学会)	福田 裕穂*(日本植物学会)
石田健一郎(日本進化学会)	木山 博資(日本神経化学会)
和田 圭司(日本神経科学学会)	遠藤 玉夫(日本生化学会)
大手 信人(日本生態学会)	鳩貝 太郎*(日本生物教育学会)
由良 敬(日本生物物理学会)	小西 真人(日本生理学会)
有坂 文雄(日本蛋白質科学会)	武田 洋幸*(日本動物学会・日本発生生物学会)
神崎 亮平(日本比較生理生化学会)	竹井 祥郎(日本比較内分泌学会)
南澤 究(日本微生物生態学会)	石野 史敏(日本分子生物学会)
樗木 俊聡(日本免疫学会)	

(計 23 団体)

団体代表(入会予定)

村上 哲明(日本分類学会連合)

(計 1 団体)

団体代表(オブザーバー団体)

東原 和成*(日本農芸化学会) 北里 洋(自然史学会連合)
海部 陽介(自然史学会連合)

(計 2 団体)

オブザーバー

大隅 典子(日本学術会議基礎医学委員会委員長)
武田 洋幸*(国際生物科学連合[IUBS]理事)
鳩貝 太郎*(国際生物学オリンピック日本委員会[JBO]副運営委員長)
馬渡 駿介(日本学術会議自然史標本の文化財化分科会委員長)

(計 4 名)

欠席：日本宇宙生物科学会 日本植物生理学会 日本薬理学会

(計 3 団体)

(構成団体合計 27 団体)

中西 秀彦 村田 英樹 山口 恵子(事務局)

(敬称略、団体名 50 音順)

議 長：浅島 誠代表

- ・本会議は「生物科学学会連合の運営規約」第 3 条により開催された定例会議である。会員出席数および欠席委任状の数の合計が総会員数の 2/3 以上となったため、同規約第 10 条により、本会議における満場一致の議決事項については本連合の議決事項として採用される。
- ・本会議は本連合設立時の第 1 回連絡会議より通算して第 31 回目の全体会議に相当する。

議題・報告：

1. 前回議事録の承認

前回議事録案が確認され、承認された。

引き続き各団体の参加者より自己紹介と挨拶がなされた。

また、浅島代表より、運営委員について前期委員を留任させたいとの提案がなされ、承認された。

2. 日本分類学会連合の入会について

日本分類学会連合の入会について、入会申込書に基づき審議がなされ、入会が承認された。引き続き、村上哲明氏より挨拶がなされた。

3. 生物科学学会連合平成 24 年度会計報告

事務局より、資料に基づき平成 24 年度会計報告が行われ、承認された。この報告内容をもとに会計監査が行われ、その結果は今後開催される定例会議にて報告されることが併せて説明された。

4. 執行部体制について

浅島代表より、2013 年・2014 年における副代表として長濱嘉孝氏、福田裕穂氏がそれぞれ推薦され、承認された。

5. 平成 25 年度補正予算案について

事務局より、資料に基づき入会予定を含む加盟団体数に変更が生じたため、金額を修正した平成 25 年度補正予算案について説明がなされ、承認された。また、浅島代表より、引き続き各加盟団体の先生方に生物科学学会連合への入会に向けた勧誘の協力依頼がなされた。

6. 平成 26 年度予算案について

事務局より、資料に基づき加盟団体を 30 団体に想定した平成 26 年度予算案について説明がなされ、承認された。

7. IUBS(国際生物学連合)について

武田 IUBS(国際生物学連合)理事より、IUBS の活動状況について以下の通り報告がなされた。

1)現在 30 カ国以上の加盟があり、国際的な活動をサポートしている。

2)日本からは東日本大震災を受けて災害時に標本を管理するための分科会を提唱している。

また、浅島代表より、ダーウィン生誕 200 周年記念シンポジウムや国際ガ

イア会議などの実例について補足説明がなされた。

8. IBO・JBO(国際生物学オリンピック)について

鳩貝国際生物学オリンピック日本委員会副運営委員長より、資料に基づき日本生物学オリンピック 2013 ならびに国際生物学オリンピックの開催概要などについて報告がなされた。この中で 2013 年 7 月に第 24 階国際生物学オリンピックがスイスで開催されるが、活動のための資金が不足気味のため、関係機関に援助の要請がなされた。

9. 法人化について

事務局より、学術研究団体を法人化する際のメリット、デメリットなどについて説明がなされた。引き続き浅島代表より、今後学協会として存続するためには、法人化が望ましいのではないかとの見解が示され、引き続き必要な情報を収集することが確認された。

10. 日本学術会議について

大隅日本学術会議基礎医学委員会委員長より、2 月 15 日に公開された第 22 期大型施設計画・大規模研究計画に関するマスタープラン「学術大型研究計画」の公募について概要の説明がなされた。この中で特に当該分野の科学者コミュニティの合意されていることや、社会的価値が形成されていることが重要であるとの認識が示された。

これに関連して浅島代表より、生物科学分野において本当に必要なものを検討するうえにおいて、学協会のコミュニティの果たす役割の重要性について述べられた。

11. ポスドク問題について

宮島運営委員より、資料に基づき 2013 年 4 月から施行される改正労働契約法の問題点について説明がなされた。労働契約が通算 5 年を超えた場合に常勤化の必要が生じ任期制の制度が成り立たなくなり、若い人の就職を狭めることになるとの指摘がなされた。生科連として何らかの対応の必要があるのではないかとの提案がなされた。

また、学協会にも影響が出るとの認識が示され、今後大学間で連絡を取り合い情報の収集を進めることが確認された。

12. その他

(1) 生科連における連合体の会員として位置付けについて

浅島代表より、今般日本分類学会連合が入会したことに伴い、生科連会員として連合体の位置付けについて説明がなされ、規約に基づき連合体も他の加盟学協会と同様に一機関として加盟することが確認された。

(2) 生科連名義による review ジャーナル発刊についての意見

浅島代表より、生科連が review ジャーナルを発行してはどうかとの提案がなされ、他の発行例も参考して引き続き検討することとなった。

(3) 大型施設・大規模研究マスタープランについて生科連としての対応

馬渡駿介日本学術会議自然史標本の文化財化分科会委員長より、資料に

基づき東日本大震災を契機とした日本における自然史標本保管の重要性が述べられ、生物多様性情報の発信や動植物の重要標本の保管などの拠点となる国立自然史博物館の設立構想について説明がなされた。これを今後日本学術会議の第 22 期大型施設・大規模研究マスタープランに応募したいとの説明がなされた。

その結果、関連学協会でコンセンサスを得て、生科連として国立自然史博物館構想の推進をサポートしていくことが確認された。浅島代表より、今後マスタープランの採択を目指し加盟団体にも意見を求めるので、協力して欲しいとの要望が述べられた。

(4)事務局担当者の交代について

浅島代表より、事務局業務を委託している中西印刷の担当者が、本年 4 月より山口氏から村田氏に交代になる予定であるとの報告がなされた。

浅島代表より、次回の定例会議開催日について、2013 年 6 月 8 日(土)に開催する旨提案がなされ了承された。時間は 14:00～16:00、会場は東京大学理学部 2 号館 2 階 223 号室とすることが確認された。

以上